

にしあいづ 議会だより

P2～5	議会懇談会報告
P6	ココが聞きたい
P8～18	一般質問
P19～20	委員会報告
P21	政策提言への回答
P22～23	広報モニターの意見
P24	この人にインタビュー



さかいこうじ ゆきこ えいと くらん じゅな りま
(写真: 坂井康司さん・有紀子さん・瑛心さん・紅蘭さん・珠愛さん・璃茉さん)

議会懇談会開催!

要望内容

町へ要望した内容は1件です。

『猟友会会員の減少により、個々の会員の負担が増大している状況を踏まえ、個体あたりの報奨金の増額や出勤に対する手当、猟銃の保持・訓練等に必要な経費への支援など、鳥獣被害対策に従事する方々への金銭的支援の検討を図られたい。』

議会トピックス①



揚水ポンプ



防災無線

防災行政無線が聞こえない箇所への対応
放送施設の性能向上を検討するほか、子局の導入や町ケーブルテレビ、SNSなど情報伝達手段を検討していきます。

農業施設の更新は、受益者負担も含め事業規模が大きくなることから国、県の補助金を活用し、負担の軽減を図ることを考えています。令和7年度より補助金活用の要件となる機能保全計画の策定作業を進めています。一方で、補助金活用により一定の受益者負担が発生することから、負担額や支援策について関係団体と協議をしながら検討していきます。

農業施設の受益者負担軽減に向けた対応

前回の懇談会で申し入れた事項への回答

ココに注目！

“まちの声”をきく！

西会津町議会では、町民の声を町政に反映させることを目的に、「町民と議会の懇談会」を開催しています。今年度より班ごとにテーマを設定し、対象団体との懇談会を実施しました。

今回は、「猟友会」「宝川いきいきサロン」「若者移住者」の方を対象に3会場で懇談会を行いました。それぞれの会場において地域の現状や課題をはじめ、テーマに沿った具体的なご意見・ご要望が寄せられました。

特に複数の会場から「有害鳥獣対策」に関する声が多く寄せられました。議会として内容を整理し、町に対して要望の申し入れを行いました。

今後も“まちの声”をききながら町政発展のために取り組みます。
詳しくは次ページへ。



議会トピックス②



町総合計画（第5次）



総合計画検討会議の様子

本計画は協働のまちづくりの理念のもと、町民参加により策定されました。今回の計画から新たに地域の幸福度や満足度を数値化・可視化する「ウェルビーイング指標」が導入されました。「未来を編む。幸せひろがる日本の田舎、西会津町。」を町の将来像とし、まちづくりの方向性、まちづくりの分野などを示した計画となりました。町議会では、9月議会での中間報告を経て、12月議会全員協議会で7人の議員から24を超える質問が出されました。議会としても、時間をかけて慎重に協議してきた総合計画になります。これからの町の指針として、事業への反映を期待します。

町の最上位計画である総合計画を可決

これからの西会津に想いを馳せて！

第19回 町民と議会との懇談会

町議会では、町民と議会との懇談会を定期的に開催しています。前回から引き続き、班ごとにテーマを決め、対象となる方や団体との懇談会を実施してい

ます。今回は、西会津町猟友会、宝川いきいきサロン、若者移住者の皆さんとの懇談でした。いずれの会場も様々な意見が出る有意義な会になりました。

有害鳥獣対策 ～西会津町 猟友会～

今回は、各会場で行われた質問や意見をご紹介します。

本町をはじめ全国的にもクマ被害が多く報告されたことを踏まえて現場で対応する町猟友会の皆さんにお話を伺いました。

現場で対応されている 猟友会の現状は。

猟友会員は、令和7年度現在で55名。うち銃保持者が22名。仕事の都合などもあり実働できる人数も限られます。檻の設置など重労働な作業もあり、人手が足りない場合は、他の分会とも連携しながら取り組んでいます。

現場での安全性を高める 取り組みは。

檻で捕獲している状態であっても、駆除するまでは危険な状態になります。檻の状況を確認するカメラを設置しているものの、複数個体が同時に出没する事例もあり、映像には死角もあるため現場作業は常に想定外のリスクを伴いながら対応しています。

今年はクマ被害が多いが、考えられる要因は何か。

猛暑によって木の实が不作だったことが考えられます。一昔前は、春熊駆除が行われ、個体数の調整が行われていましたが、現在は動物保護により行われていません。また、今のクマは車や人への警戒心が薄れているようにも思われます。

活動にあたっての金 銭的な負担は。

免許取得や猟銃取得について町からの補助があるものの、一定の負担はあります。例えば猟銃を保持していると購入や維持費のみならず、更新手続き、訓練への参加などの負担があります。

報奨金制度の現状に 満足できるか。

現在、クマ1頭捕獲した際の報奨金が2万円。ただ支給は、捕獲時に限られるため、檻の設置や巡回、訓練などには支給がありません。また、「報奨金目当てでやっているのではない」との意見も出されました。



クマ檻撤去の様子

こんな町に
なったらいいな
宝川いきいき
サロン

いつものサロン活動
にも参加し、体操やさ
すけねえ輪音頭など一
緒に体を動かした後、
「こんな町になつたらいい
な」をテーマに懇談
しました。



宝川いきいきサロンでの懇談会の様子

町民バス、デマンド
バスについて、診療
所や運動施設に行く
ときに利用したいが、
運行時間の設定はで
きるのか。また町の
イベントや各種大会
などを走らせてはどうか。
運行時間については、
町当局と利用者との話
し合いの場を持つこと
が大事だと思います。

臨時バスについても
利用者増加につながる
ことが考えられるため、
利用者の声をきく機会
をつくれないうか町に要
望してみます。

冬期間のサロン開催
にあたって、集会所
の除雪をすることが
厳しい。また道が狭
くドザーが入れない
町道があるが、その
ような箇所はどのよ
うに対応しているの
か。

他自治区では、除雪
組合をつくり、オペレ
ーターを選任し、集会所
前や狭い道を除雪して
いる事例があります。

健康診断時の送迎バ
スの停車箇所を増や
すことができないか。

停車箇所を増やして、
受診率が高まるのであ
ればいいことなので、
町に要望してみます。



移住者の皆さんとの懇談会の様子

移住者の声を
きいて
移住者の
皆さん

人口減少が進む西会
津町にとって、移住者
の皆さんは、地域活性
の核となっています。
移住者の皆さんが充実
して暮らせる町を目指
して懇談しました。

西会津町に移住して
感じたことは、

女性が声を挙げにく
い雰囲気があります。
意見を吸い上げる体
制が必要だと思います。

移住者は女性が多いの
で、安心して暮らせる
住宅紹介や行政サービ
スでも女性目線の対応
が必要だと思います。
子どもと一緒に移住し

たので、町の教育につ
いて話せる場が欲しい
と思います。

移住者の受け皿とし
て地域おこし協力隊
の制度を活用してき
たが、どのように運
用することがいいか。

過去には、芸術村を
中心に受け入れ体制が
しっかり行われていた
ように思います。

退任時の働き先や起
業の道筋が心配。定着
率にも影響すると考え
られます。

かつて実施していた
起業型地域おこし協力
隊の再検討が必要に思
います。

継承事業については、
制度だけでなく追加し
た支援も必要になると
思います。



令和7年12月定例会開催期間 12月5日～11日

ココが聞きたい！

補正予算・議案への質疑！

町道舗装工事に関わる質疑

町道の舗装工事費用が2,000万円減

問 道路舗装関係の工事金額が大幅減となっているがその要因は。工事縮小や工事中止などではないのか。

答 国の査定で金額が大きく減少となったため。中止などではない。

仲川議員

下水道事業会計補正予算第1次に関わる質疑

一時借入金が増額について

問 一時借入が1億から2億となった経緯と今後の見通しは。

武藤議員

答 当初の見込みで1億としたが事業の進捗状況を鑑み余裕を持ち2億とした。

町総合計画第5次の策定に関わる質疑

介護施設の整備内容について

問 介護施設の整備推進の内容はどのようなものか。

小林議員

答 基本構想から始まり具現化の内容を基に現在、施設整備実施計画を策定中である。現在の施設を利用した形の整備にするかなど、検討を進めている。

こゆりちゃんの豆知識

討論てなに？

議案に対する賛成または反対の立場と理由を公式に述べる発言のことです。自分の立場を議事録に明確に残す目的もあるよ！



討論・採決となった議案

議会議員の議員報酬及び費用弁償の一部を改正する条例

議員期末手当を0.05月上げるもの

討論・採決の結果

起立採決 賛成多数 により可決

渡部	仲川	長谷川	上野	小林	荒海	秦	伊藤	三留	猪俣	青木	武藤
○	○	○	○	×	○	○	—	×	○	○	○

○は賛成、×は反対。伊藤議員は議長のため採決に加わっていません。

反対

小林 雅弘 議員

物価高で町民の生活はますます苦しくなっている。年金も物価の上昇率に追いついていない。議員の活動に対する報酬と考えるが、果たして報酬を上げることに見合う活動を今しているのだろうか。もっと旺盛に政策提言や提案をすべきではないだろうか。そう考える時、据え置きが正しいのではないだろうか考える。従って、議員の報酬を上げることに反対する。

賛成

武藤 道廣 議員

町議会は、国の人事院、県の人事委員会 の勧告に準じてきた経緯がある。健全財政のもとでは議案を否定するような状況にはない。議員の活動を精いっぱいやっていることも事実である。自分の活動を低くみるのではなく見合った活動をするのが議員である。そうした事から議案に賛成する。

12月定例会 審議議案と結果	
上程議案・概要・結果	結果
条例の改正	
議会議員及び町長の選挙における選挙運動の公費負担に関する条例 関係法令の改正によりポスター作成などに係る公費負担の変更	可決
職員の給与に関する条例 人事院勧告に準じ、民間給与との均衡を総合的に勘案した上で改訂を行うもの	可決
火入れに関する条例 乾燥注意報などの表記変更	可決
町長等の給与及び旅費に関する条例 人事院勧告に準じ、期末手当の月数を0.05月上げる	可決
議会議員の議員報酬及び費用弁償に関する条例 人事院勧告に準じ、期末手当の月数を0.05月上げる	起立採決 可決
令和7年度一般会計及び特別会計補正予算	
一般会計補正予算（第4次） 補正額586万7千円増額 主に人事異動に伴う人件費の調整	可決
一般会計補正予算（第5次） 補正額27万6千円増額 町長などの特別職及び議員の期末手当の調整	可決
国民健康保険特別会計補正予算（第2次） 補正額2159万7千円増額 主に人事異動に伴う人件費の調整	可決
介護保険特別会計補正予算（第2次） 補正額131万円増額 主に人事異動に伴う人件費の調整	可決
簡易水道等事業会計補正予算（第1次） 収益的収入及び収益的支出 補正額79万8千円減額 資本的収入 補正額3113万2千円増額 資本的支出 補正額3200万円増額	可決
下水道事業会計補正予算（第1次） 収益的収入及び収益的支出 補正額383万8千円増額 資本的収入 補正額639万2千円減額 資本的支出 補正額504万2千円減額	可決
その他の議案	
町総合計画（第5次）の策定 令和8年から令和15年までの町の最上位計画	可決
固定資産評価審査委員の選任	
固定資産評価審査委員会委員の選任に同意 委員：目黒新矢さん（4町内）	同意
固定資産評価審査委員会委員の選任に同意 委員：石本忠吉さん（上野尻）	同意
固定資産評価審査委員会委員の選任に同意 委員：伊藤徳伸さん（呼賀）	同意
請願・意見書の提出	
インボイス制度の見直しを求める意見書の提出に対する請願・意見書案	可決
所得税法第56条の廃止を求める意見書の提出に対する請願	継続審査
報告事項	
委任専決処分事項 事故による損害賠償と和解に関する報告（2件）	報告
委任専決処分事項 災害時対応による庁舎内の電源コンセント増設工事（宿直室など）	報告

町政を問う

ここが聞きたい 10人が登壇

一般質問各ページは、質問した議員本人の責任のもと、
構成と執筆をお願いしております。

一般質問は12月8日から9日までの2日間で行い、議員10人が登壇して、町政の課題などを問いました。

○青木照夫 議員（9ページ）

- ・有害鳥獣対策
- ・人口減少対策

○小林雅弘 議員（10ページ）

- ・熊対策
- ・物価高騰対策

○三留正義 議員（11ページ）

- ・町道と流雪溝の管理

○上野恵美子 議員（12ページ）

- ・子どもの教育
- ・「キッズランド芝草」の活用

○長谷川正 議員（13ページ）

- ・これからの雪対策

○秦貞継 議員（14ページ）

- ・町主催イベント
- ・町の公共交通

○仲川久人 議員（15ページ）

- ・町民バス
- ・町道補修
- ・下水道普及率の促進

○荒海正人 議員（16ページ）

- ・結婚支援

○渡部佳菜子 議員（17ページ）

- ・ミネラル野菜
- ・高齢者の育児参画

○猪俣常三 議員（18ページ）

- ・安全安心なまちづくり
- ・教育関連施設などの安全対策
- ・鏡山付近の整備

一般質問とは

一般質問とは、議員が町の事務の執行状況や将来の方向性について報告や説明を求め、町民のための適切な行政運営が進められているかをチェックするものです。

事前の通告に基づき質問

質問者は、議長の許可を得て事前に執行者に通告した内容に沿って質問することができます。

反問権

議会において、町長や執行部などが、議員の質問や質疑の趣旨が不明な場合などに、質問等を行った議員に問い直す権利。

議事の運営について

一般質問の内容から外れた場合は、議長が止めに入ることがあります。

1時間以内なら何度も質問可能

論点及び争点を明確にし、議論が深まるよう一問一答方式を採用しており、答弁を含めて1時間の時間内であれば何回でも質問することができます。



あおき てるお 青木 照夫 議員

ひと言

町の支援と同時に、縁あるひとに手を差し伸べる「ライフプラン」の世話やき人が大切です。

有害鳥獣対策

問 有害鳥獣が里山に出没する原因は

答 社会・自然環境の変化が原因

問 里山に猿、熊、猪などが出没する原因は何か。

答 農林振興課長

森林の荒廃、耕作放棄地の増加、狩猟ハンターの高齢化と減少による野生鳥獣の生息域の拡大、ブナの実やドングリなどの不作により山のエサ不足が頻発していること。さらに個体数の増加や人間に対する警戒心の低下など複合的な要因があると捉えている。

問 森林環境税はどのように活用されているのか。

答 農林振興課長

県民税として課税される森林環境税は、令和6年度500万7

千円が交付された。町では、公民館が主催している自然体験学習やふるさとまつりでの木工教室、西会津小学校児童を対象にした森林学習や自然体験学習、集落周辺の見通しの良い環境整備のための環境共生整備事業に活用した。

国税として課税される森林環境税は、令和6年度2,208万2千円が交付され、町では森林所有者への意向調査事業、林政アドバイザー事業、町内で間伐した針葉樹を木質ペレットに加工し、町内公共施設で燃料として使用する森林資源地域循環利用促進事業、森

林の施業界をデジタル技術の活用によって明確化する森林施業界明確化事業などを実施してきた。

問 有害鳥獣対策費として森林整備に使うべきだ。

答 農林振興課長

今後の流用を検討する。



耕作放棄された田

人口減少対策

問 結婚支援への対策は

答 結婚世話やき人の確保も対策の1つ

問 今までの外部委託による事業実績は。

答 福祉介護課長

6社にイベントの企画・運営を委託した。その結果、22回の開催、成婚者4組と把握している。

問 30代から50代の未婚者の人数と未婚率は。

答 福祉介護課長

男性424人50%、女性200人27%。

問 出会いの場の創出として首都圏（在京西会津会のゆかりの方も含めて）などで婚活イベントを実施してはどうか。

答 福祉介護課長

現在は町内のみだが、場所の選定は柔軟に考える。世話やき人の確保も必要だ。

町の物価高騰対策は「おこめ券」ではなく、何にでも使える現金や商品券を求めます。



こばやし まさひろ 議員
小林 雅弘

熊対策

問 捕獲手当や報奨金の見直しを

答 町猟友会と調整している段階

問 サルパトロール
手当や捕獲報奨
金など、手当の見直し
を検討してはどうか。

答 町長
現在、近隣市町
村の状況調査や町猟友
会と調整を行っている
段階である。

問 緊急銃猟につい
て、町の考えは。

答 町長
町は猟友会や警
察署と協議を行って
おり、令和8年1月の運
用開始を目指している。

問 緊急銃猟という
危険な熊対策が
始まった。射撃の技術
向上のため射撃研修に
補助をしてはどうか。

答 町長
緊急銃猟の安全対策の
ため、今後各分会に支
給する。訓練の実施も
検討する。



熊捕獲用ワナの
移動の様子

問 捕獲を担う猟友
会の技術向上のため、
研修への支援は捕獲報
奨金など全体の見直し
の中で検討している。

答 町長
熊対策に出動す
る職員や猟友会
の安全のため、熊スプ
ーや盾を支給しては
どうか。

問 有害捕獲業務や
緊急銃猟の安全対策の
ため、今後各分会に支
給する。訓練の実施も
検討する。

答 町長

物価高騰対策

問 一人一人に現金か商品券を配っては

答 支援のため必要な対応を実施する

問 物価高騰の中、
町としてはどの
ような経済対策を考え
ているのか。

答 町長
町としては、国
から提示された「重点
支援地方交付金」の事
業メニューや、本町へ
の予算配分などを踏ま
え、事業の内容を検討
していく。

問 物価高騰対策と
して、町民一人
一人に現金か商品券、
またその両方を配るべ
きだ。

答 町長
その意見も踏ま
えてよく検討していく。



商品券と現金

問 国からの通知を
待って検討するが、物
価高騰に対する生活者
支援は大変重要である
と認識しており、必要
な対応を実施していく。

答 町長
おこめ券は物価
高騰対策（経済
対策）としてはスジが
悪い。500円のおこ
め券で440円分しか
買えない。60円は手
数料でとられる。

問 町長

答 町長



三留 正義 議員
みとめ まさよし

ひと言

今冬は昨年のような大雪にならないことを願っています。

町道と流雪溝の管理

問 流雪溝は改修したのか

答 利用団体などの要望により行う

問

道路使用に支障のある樹木などはどのように対処しているのか。

答

建設水道課長

町道などの生活

道路については、道路敷地内の通行に支障のある樹木などを道路管理者である町が伐採するなどの処理を行っている。

一方、道路に隣接する民地（道路敷地以外）の樹木などについては、所有者による伐採を原則としている。ただし、倒木により通行止めが生じるなど、緊急を要する場合は、所有者や自治区長などの了解のもと、町による緊急伐採を行う場合がある。

道路敷地の茂みなどの除去については、有害鳥獣対策の観点からも、一定の効果があるものと認識している。

問

道路に付随する

排水施設などの

管理についてはどのようにしているのか。

答

建設水道課長

道路施設として

設置している水路については、道路管理者によるもののほか、地域や集落及び団体などの「共助・互助」による協力をいただきながら、適切な管理を心掛けている。

問

排水施設である

野沢町内の流雪

溝で、今年度改修した箇所はあるのか。

答

建設水道課長

流雪溝としての

改修などは、利用している団体などの要望があれば行う。



スムーズな流れが期待されている

1人ひとりの子どもの 「生きる力」を育むことが大切！



うの え み こ
上野恵美子 議員

子どもの教育

問 町が目指す子どもの教育は

答 保小中連携教育で「生きる力」を育む

問 町が目指す幼児教育及び学校教育は。

答 教育長
変化の激しい社会に対応できる「生きる力」の育成が重要であると考えている。

町では、0歳から中学校3年生まで一貫した「保小中連携教育」に保育士・教員・家庭・地域が力を合わせて取り組んでいる。

問 町が取り組んでいるGIGAスクール構想の目的及びその効果と課題は。

答 教育長
1人1台タブレットや通信ネットワークを整備し「ICT教育」を進めてきた。

問 国が進めているGIGAスクール構想の目的は、ネットワーク環境を整備することで、特別な支援を必要とする子どもを含め、多様な子どもたちを誰ひとり取り残すことなく一人ひとりの個性・資質・能力などを引き出し、育てることではないのか。

答 教育長
各教科の学習のみならず、総合的な学習などにもタブレットを利用している。それにより、学習意欲の向上や学びの個別最適化などの効果が認められる。一方で、タブレットを十分に活用できない子もいる。タブレット

トはあくまでも学びをサポートするツールであり、紙の教科書もフルに活用し、デジタルとアナログをバランスよく活用する必要がある。

問 今後は、誰一人取り残さない教育の実現のため、こども園を福祉介護課から教育委員会に移管し、「保小中連携教育」の強化を図る必要があるのでは。

答 教育長
現在も連携を取って進めているが、町の方針に従う。



小さな背中からたくさんの可能性を感じます！

「キッズランド芝草」の活用

問 地域交流の現状と今後の取り組みは

答 周辺住民との交流も進めていく

問 「キッズランド芝草」を活用した事業の目的は。

答 福祉介護課長
子育て世代の居場所や仲間づくり、地域交流を目的とした施設である。

問 利用状況は。

答 福祉介護課長
初年度の令和3年度は517名、令和7年度は11月までに、1,099名と利用者は増加している。

問 事業の目的にある「地域交流」の現状と今後の取り組みは。

答 福祉介護課長
定期的に町による親子イベントを開催している。今後は周辺住民の方々との交流も進めていく。



は せ が わ た だ し
長谷川 正 議員

ひと言

雪対策、これで良しとの答えなし、
先を見越した体制強化！

これからの雪対策

問 雪対策をした物件に補助はあるか

答 今後必要性について調査研究する

問 雪対策を考慮した新築・改築物件に補助の考えはあるか。

答 建設水道課参与
本町では、現在のところ雪対策を考慮した建物の補助制度はない。

問 今後、必要性について調査研究を行っている。

答 除雪の際の雪押し場の現状・課題と、今後の対策は。建設水道課参与
地域や土地所有者などの協力をいただき、空き地などを一時的な雪押し場として活用している。

問 また、ダンプを使用した排雪作業も行って

いる。今後も、新たな雪押し場の確保や排雪作業により適切な対応をしていく。

問 雪害弱者と言われている高齢者世帯などへの具体的な支援策は。

答 福祉介護課長
町では高齢者や障がい者、母子世帯など、経済面・体力面などで雪対策に苦慮されている世帯を対象として、除排雪費用助成事業と雪処理支援隊の派遣事業を行っている。

問 除排雪費用助成事業については、住民税非課税世帯が雪おろしなどで、町の登録業者に依頼した際に使える1万円分の給付券を交

付し、経済的負担の軽減を図っている。また、雪処理支援隊の派遣事業については、住民税非課税世帯で自力での除排雪が困難で、親族や近隣からの支援も受けられない世帯に、道付けや雪踏み、声掛けなどの見守りを行っている。

問 直営除雪オペレーターの確保と新規重機購入の考えは。

答 建設水道課参与
直営オペレーターは、高齢化などにより、人員確保が課題である。現在、人員確保のため大型特殊免許取得に係る費用の一部を補助し、人材確保に努めている。また、除雪機械は、

現在の保有台数が適正であり現段階では増強の考えはない。

問 除雪オペレーターの今後の報酬・手当などの増額の考えは。

答 建設水道課参与
町では、県の労働単価の上昇率などを参考に、本年度は賃金を増額した。また、チーフ手当の増額を行い、意識の向上に努めているところだ。



除雪の様子

ひと言

町民バスも各種イベントも参加を希望される方々の意見が大切。町には町民の皆さんの声なき声をきく努力を望みます。



はた 秦 議員
さだつぐ 貞継

町主催イベント

問 各種イベント充実の取り組みは

答 各種関係団体との連携を強化する

問 町外からの集客イベントにおいて、参加者を増やすために重視している点は。

答 町外からの集客イベントにおいて、参加者を増やすために重視している点は。

答 効果的な広報、イベント内容の魅力向上、地域内外の関係者との連携強化、アクセシビリティや来場時の利便性向上である。

問 町主催イベントのスクラップ＆ビルドは行われているか。

答 町主催イベントのスクラップ＆ビルドは行われている。

問 町主催イベントのスクラップ＆ビルドは行われているか。

答 町主催イベントのスクラップ＆ビルドは行われている。

問 町主催イベントのスクラップ＆ビルドは行われているか。

答 町主催イベントのスクラップ＆ビルドは行われている。

問 町主催イベントのスクラップ＆ビルドは行われているか。

答 町主催イベントのスクラップ＆ビルドは行われている。

問 町主催イベントのスクラップ＆ビルドは行われているか。

答 町主催イベントのスクラップ＆ビルドは行われている。

問 町主催イベントのスクラップ＆ビルドは行われているか。

答 町主催イベントのスクラップ＆ビルドは行われている。

問 町主催イベントのスクラップ＆ビルドは行われているか。

答 町主催イベントのスクラップ＆ビルドは行われている。

問 町主催イベントのスクラップ＆ビルドは行われているか。

答 町主催イベントのスクラップ＆ビルドは行われている。

問 町主催イベントのスクラップ＆ビルドは行われているか。

答 町主催イベントのスクラップ＆ビルドは行われている。



参加者が笑顔になるような敬老会が望まれる

町の公共交通

問 高齢者や交通弱者が利用しやすい環境を

答 運転手負担を軽減しながら町民の声をきいていきたい

問 全国的な人材不足のなか、バス運転手の人材確保の見通しは。

答 町民税務課長 人材確保が大変厳しい状況。

問 町内イベントや健康診断時の利用など、町民が更に利用しやすいよう、定期的に町民と意見交換の機会を設けることも重要ではないか。

答 町民税務課長 サロンなどの機会を捉え、町民の皆さんの意見を把握し、より利用しやすい運行に努める。

問 宝川地区において健康診断時のシャトルバスの乗降場が遠く、健診を受けるときに支障が出ているとの意見があった。対応できないのか。

答 健康増進課長 シャトルバスの

問 運行は柔軟に対応できない。今後検討したい。

答 町民税務課長 高齢者が乗り降りするバスにおいて、乗降口への配慮が必要ではないか。

問 町民税務課長 運行する車両には手すりや電動補助ステップを可能な限り装備している。

問 運転手の負担軽減のため、センサーや安全装置を積極的に導入すべきではないか。

答 町民税務課長 バスの経年劣化もあり、取り付け可能な車両には取り付けられるか調査検討をしていきたい。

問 町民税務課長 運行する車両には手すりや電動補助ステップを可能な限り装備している。

問 運転手の負担軽減のため、センサーや安全装置を積極的に導入すべきではないか。

答 町民税務課長 バスの経年劣化もあり、取り付け可能な車両には取り付けられるか調査検討をしていきたい。

問 町民税務課長 運行する車両には手すりや電動補助ステップを可能な限り装備している。

問 運転手の負担軽減のため、センサーや安全装置を積極的に導入すべきではないか。

答 町民税務課長 バスの経年劣化もあり、取り付け可能な車両には取り付けられるか調査検討をしていきたい。



なかがわ ひさと 議員
仲川 久人

ひと言

小さな改善の積み重ねから
町民の安全確保と生活の質の向上につなげ
ましょう!!

町民バス

問 町民バスの役場本庁舎乗り入れは

答 実施に向け検討していく

問 定時定路線バスの役場本庁舎前

までの延伸は可能か。

答 町長

町民バスの運行は「自家用有償旅客運送者」として登録されている町が、路線の始点と終点停留所の追加など、目的に応じて登録変更の手続きを踏むことにより延伸することは可能である。

問 延伸によりどの位のコスト増となるのか。

答 町長

三路線合計で年間約102万円の負担増となる。

問 様々な課題もあるが定時定路線バスの役場本庁舎前へ

の乗り入れを実施する考えは。

答 町民税務課長

高齢者と交通弱者対策といった効果も含めて今後、充分に調査を行う。また、課題も含め実施できるようバス交通体系整備検討会などで検討し、長期持続可能な町民バスの運行維持に努めている。



運行している定時定路線バス

町道補修

問 町道(漆窪～泥浮)補修の予定は

答 令和8年度事業で計画

問 町道漆窪から泥浮の間は、ひび割れや陥没などの破損が著しく危険な状況である。損傷箇所についてどのように確認しているのか。

答 建設水道課参与町道については、定期的に道路パトロールを実施し道路の状況把握に努めている。当該路線の一部で数センチ程度の舗装沈下やひび割れ、側溝の軽微な損傷についても確認をしている。



町道漆窪～泥浮の路面状態

問 損傷の原因をどのように推測しているのか。

答 建設水道課参与多種多様な原因が考えられるが、当該路線においては大部分が経年劣化によるものと、車両の大型化の影響と考えられる。

問 補修も含め改修工事の計画は。

答 建設水道課参与現在、令和8年度の予算編成時期である。具体的な内容までは説明できないが早急な対応に努める。

ひと言

結婚対策は、担当する福祉介護課だけでは、限定的な取り組みとなってしまう。
町をあげた取り組みにつなげてほしい。



あらうみ まさと 議員
荒海 正人

結婚支援

問 視点を変えた事業展開が必要では

答 各課連携しながら協議をすすめる

問

若者の町外流出
や出生数の減少
が続く中、結婚対策を
どのように位置付け、
事業展開をしているの
か。

答

福祉介護課長

結婚対策は、子
育て支援や教育振興、
就労環境整備など、相
乗効果を発揮するよう
総合的に取り組む必要
があると考えている。
また、結婚支援・少子
化対策について事業連
携推進会議による全庁
横断的な対応と、町民
有志による後継者対策
実行委員会により事業
運営を行っている。

問

町では、福島県
が運営するマッ
チングアプリ「はぴ福
なび」

なび」への登録支援や
結婚相談所利用料の補
助が行われているが、
町の利用実績は。

答

福祉介護課長

福島県が運営す
るマッチングアプリ「は
ぴ福なび」の登録件数
は、これまで7件。昨
年からは、出張相談会
を開催し利用促進に努
めている。結婚相談所
登録利用料の補助実績
はない。

問

今後の対策は。

答

福祉介護課長

対象とされる方
には、主体的な行動を
控える傾向が見受けら
れる。その特性に対応
することが必要である
と考え、結婚を望む2

問

今後の対策のひ
とつとして、人

生設計を見据えた結婚
支援や移住・定住施策
と連動した出会いの場
づくりなど、新たな視
点による事業展開が必
要なのではないか。

答

福祉介護課長

今後、調査・研
究していく。また、事
業連携推進会議の場な
どで関係各課と協議を
進めていく。

結婚したいあなたを福島県が応援します！

はぴ福なび

公益財団法人福島県青少年育成・男女共生推進機構
ふくしま結婚・子育て応援センター

福島県で運営するマッチングサイト「はぴ福なび」



わたなべ かな 議員
渡部佳菜子

ひと言

農業と子育てを通して、人が役割を持ち、安心して暮らせる地域を育てていきたい。

ミネラル野菜

問 ミネラル野菜の今後の方向性は

答 ミネラル野菜のブランド化を進める

問 生産者の減少や高齢化、資材費

高騰への対応は。

町長

答 新規就農者の確保や後継者の育成を進めるとともに、地域の実情に応じた主力となる作物の選定を行っている。また、ミネラル

資材の選択肢を拡充し、低コスト化を図っているところである。

問 趣味や生きがい層と、生計を立てる生産者への支援の考え方は。

町長

ミネラル野菜生産には多様な関わり方があり、それぞれの目的に応じた参加が重要である。今後は、経営

として取り組む生産者と、趣味・生きがいとして関わる層の双方を尊重しながら、役割に応じた支援のあり方を検討していく。

問 ブランド化に向けた今後の取り組みは。

町長

土壌分析や品質の見える化を進めるとともに、非破壊式糖度計の活用などにより品質の差別化を図り、販路拡大や情報発信を通じて、安心・安全な農産物としての価値を高め、ミネラル野菜のブランド化を進めていく。

答

図

図

図

図

図



高齢者の育児参画

問 高齢者と親子の交流づくりの場を

答 世代間交流の場を広げ支え合う

問 高齢者が子育て支援に関わる意義をどう考えるか。

福祉介護課

答 高齢者が子供と関わることは、子育て世代の負担軽減につながる。高年齢者自身も、高年齢者自身の生きがいや健康づくりにも寄与すると考えている。世代を超えた交流は、地域全体のつながりを深める上でも重要である。

問 現在、どのような世代間交流の取り組みを行っているか。

福祉介護課

答 放課後児童クラブや長期休業中の活動において、地域の方々やボランティアと連携

した体験活動を実施している。

また、高齢者サロンや「おいでおいで」事業などを通じて、子どもと高齢者が触れ合う機会の創出に取り組んでいる。

問 今後、高齢者の育児参画をどのように広げていくのか。

福祉介護課

答 高齢者の負担とならないよう配慮しながら、地域の実情に応じた関わり方を検討し、無理のない形で世代間交流を継続していく。子どもが安心して過ごせる環境づくりと、高齢者の生きがいづくりの両立を図っていく。



ひと言

クマが人間の生活圏内まで侵入してきている。里に下りて妊娠・出産することにより、獣の生態系が変わるのではないかと心配している。



いのまた 猪俣 常三 議員

安全安心なまちづくり

問 暮らしを守る実効性あるまちづくりは

答 ビジョンの達成に向け取り組んでいく

問 狭い路地の解消など含めた、実

効性あるまちづくりへの考えは。

答

町長

西会津町総合計画において、町の将来像の実現に向け、5つの指針を掲げている。その一つ、まちづくりの分野の「生活・交通インフラ」や「消防防災・安全対策」において、町道の改良・修繕や消防防災組織の強化、消防施設・設備の充実など、今後4年間の具体的な取り組みを明記している。町としては、目指すべきビジョンの達成に向け取り組んでいく。

問 旧役場庁舎利用の考えは。

答

町長

第5次総合計画における議論において、旧役場庁舎の利用に関する具体的な意見などはなかった。一方で、幅広い世代が気軽に利用できる公共複合施設の整備についての意見があり、第5次総合計画にも掲げられた。既存遊休施設の跡地も含めた有効活用や、町にもたらす効果、財政状況などを踏まえながら中心エリア整備構想の議論と併せて総合的に検討していく。

教育関連施設などの安全対策

問 クマが学校敷地内に侵入した時の対応は

答 子ども達を屋内へ避難、校舎の施錠を行う

問 クマが学校敷地内に侵入した時の対応は。

答 学校教育課長

学校委員会が作成した「クマ出没対応マニュアル」をもとに、各学校で同マニュアルを作成し、クマ出没時の連絡体制、教職員の対応方法、保護者への協力依頼や周知、児童生徒の安全確保など、緊急時に対応できる体制を整備している。

敷地内にクマが侵入した場合を想定した訓練は実施していない。しかし、マニュアルに沿った屋内への避難や校舎の施錠などを素早く行う体制の徹底を学校と共有している。町としては、子ども達の安全確保に向け必要取り組みを進めていく。

問 こども園と学校の近隣に針葉樹林があり、獣の隠れ家になる危険性がある。対策は。

答 農林振興課長

獣の隠れ場所となる林に、危険鳥獣が潜むことは想定される。そのため、環境整備事業（除間伐含む）を実施している。



住民や子ども達に安心を届ける緩衝地帯を

総務常任委員会報告

総務常任委員会では、教育施策の充実及び公共施設の在り方について調査研究を行うため、先進自治体における所管事務調査を実施した。

また、地域住民が授業や行事に関わる機会も多く、子どもたちが地域の中で育つ意識を高める工夫が見られた。

■委員会の見解

小規模自治体であっても、教育方針を明確にし、地域資源を活かすことで、特色ある教育を継続的に展開できることが確認された。

本町においても、地域の強みを教育にどう位置づけるかを整理し、

保小中の一貫した視点で教育施策を進めていくことが重要であると考える。

2 公民館老朽化への対応と複合施設の検討（茨城県筑西市）

■調査内容

茨城県筑西市では、既存の学校施設を活用し、公民館機能や地域交流機能を併設する複合施設整備が進められていた。

児童の安全確保を最優先とし、動線や利用時間帯を明確に分離す

ることで、学校機能と地域利用が両立できる設計・運営がなされていた。

また、新設ではなく既存施設を活用することで、設備費用や維持管理費の抑制にもつながっている。

■委員会の見解

公共施設の老朽化対策においては、単なる建て替えではなく、既存施設の活用や複合化を含めた検討が重要であると考える。

本町においても、安全性の確保を前提としつつ、地域交流の拠点としての機能をどのように維持・発展させるか、長期的視点で検討を進める必要がある。

3 わかりやすく発信する子育て支援（茨城県筑西市）

■調査内容

子どもの成長段階に応じた支援内容を整理

し、パンフレットなどを活用して「見える化」を図っていた。

支援制度自体は、他自治体と大きく異なるものではないものの、情報提供の工夫により、保護者が必要な支援にアクセスしやすい体制が整えられていた。

また、子育て支援と公共施設を組み合わせることで、相談や交流が生まれやすい環境づ

くりが進められていた。

■委員会の見解

子育て支援においては、制度の充実だけでなく、分かりやすく伝える工夫が重要であることが確認された。

本町においても、既存の支援施策を整理し、町民の立場に立った情報発信を行うことで、子育て世帯の安心感向上につなげていく必要があると考える。



南相木村での視察の様子



青木村での視察の様子

経済常任委員会報告

経済常任委員会では、

町の基幹産業である農業の持続的発展と地域経済の活性化、ならびに豪雪地帯における生活基盤の維持・強化を図るため、先進的な取り組みを行っている自治体や民間事業者を訪問し、所管事務調査を実施した。

視察した。

- ・ 農薬・化学肥料を使用せず、10年以上かけて土づくりを行う自然栽培。
- ・ 最大約90haの農地を管理し、土壌分析に基づく栽培管理を実施。
- ・ 干し芋加工施設を自社で保有し、加工・選別・包装まで一貫体制。
- ・ 直売・ネット販売、ふるさと納税返礼品など多様な販路を展開。
- ・ ICT活用や研修受け入れにより人材育成と地域雇用に貢献。

1 持続可能な農業(株式会社Tファームの干し芋生産販売)

■調査内容

今後の本町農業施策の参考とすることを目的とし、持続可能な農業に取り組み、野菜や果物の商品開発を推進している先進事例として、自然栽培によるサツマイモの生産・加工・販売を一体的に行う株式会社Tファーム(茨城県東海村)を調査・



Tファームでの視察の様子

■委員会の見解

生産から加工・販売までを地域内で完結させる仕組みは、農業の付加価値向上と雇用創出につながる。

自然と共生する経営姿勢は、本町のミネラル栽培をさらに発展させる一つの選択肢として、農業政策に生かすべきである。

2 除雪体制などの視察(新潟県津南町)

■調査内容

今後の除雪体制の参考とすることを目的として、豪雪地帯である新潟県津南町における、行政と地域が連携した除雪・雪対策の体制について調査・視察した。

- ・ 町道の幹線・生活道路を対象に、町直営除雪隊と業務委託による除雪体制。
- ・ 降雪量や気象情報を基に早朝から出勤判断。



津南町での視察の様子

■委員会の見解

重機約30台を保有し、計画的に更新。

地域ごとに「地域除雪隊」を編成し、狭小道路や高齢者宅周辺を支援。

克雪住宅整備や雪下ろし安全対策への補助制度を実施。

を組み合わせた仕組みは、豪雪地帯における現実的で持続可能なモデルである。

本町においても、将来的な担い手確保や地域協力体制の強化に向け、津南町の事例を参考に必要がある。

行政による直営体制と地域住民の支え合い

「政策提言」に対する町からの回答

令和7年6月議会において5つのテーマに基づく政策提言書を町に対し申し入れを行いました。



←提言内容はQRコードより確認できます。(No.170 P16,17)

提言1 越境人材が定着できる環境整備

- | | |
|--------------------|--|
| 1. 産業のDX促進に向けた調査を | 回答 実態調査の必要性や状況を踏まえ検討する。 |
| 2. 移住定住促進住宅事業の拡大を | 回答 これまで進めてきた人材の受け入れや、空き家活用をさらに拡大していく。 |
| 3. 保育・教育留学の情報発信強化を | 回答 小中学校での教育留学にも移住定住施策と一体に情報発信を進めていく。 |

提言2 デジタル戦略推進に向けた体制整備

- | | |
|------------------|--|
| 1. 戦略進捗管理体制の確立を | 回答 担当課を中心に各事業の進捗、社会課題への対応などを協議していく。 |
| 2. 実務に応じた研修会の開催を | 回答 既に行っている講習会もあり、今後も開催していく。 |

提言3 子育て環境充実への取り組み

- | | |
|------------------|---|
| 1. 人材確保に向けた取り組みを | 回答 保育士養成機関との関係を強化し、就業後でも給与や職場環境改善を目指す。 |
| 2. 子育て支援ガイドの改良を | 回答 既存のものを活かしつつ、特に就学以降の支援について担当課とも連携して整理していく。 |

提言4 新たな集落支援に向けた取り組み

- | | |
|-----------------|--|
| 1. 集落支援の範囲拡大を | 回答 町内全域を対象としたニーズ調査や、地域行事への支援など強化を進めている。 |
| 2. 各地区との連携体制強化を | 回答 民生児童委員や、ささえ愛支援会議をはじめ、必要に応じて自治区長を交えた新たな協議体の設置を検討していく。 |

提言5 地域のリーダー育成に向けた取り組み

- | | |
|-----------------------|---|
| 1. 大人研幾塾の内容の見直しを | 回答 受講者のアイデアを町が支援する提案については、参加者の自発的な取り組みが前提となる。今後は、地域団体への支援も含めて検討する。 |
| 2. 若者コミュニティサポート事業の新設を | 回答 補助事業の新設より団体設立に向けた支援が必要。育成メニューや支援策を検討する。 |
| 3. 集落支援をテーマとする会議体の設置を | 回答 役場内に事業連携推進会議を設置した。集落支援の在り方や課題解決策を検討する。 |

「議会だよりのご意見番」 広報モニターさんからの提案



今回、広報モニターの皆さんからは、「議会だより」について
たくさんのご意見をいただきました。ありがとうございました。

すぐに反映できるものは取り入れました。

時間が必要なものは広報委員全員で「どうすればできるか」考えていきます。

改善したことについても、またご意見をいただきたいと思います。



【表紙】

○新規就農者などの一次産業で頑張る
農家の皆さんを取り上げては。
○目次がもう少し大きくても感じた。



【一般質問】

○もう少しスリム化を図り、ボリュームダ
ウンする工夫を。
○「ひと言」欄は素晴らしいが、写真の取り
扱いが雑。改善を。
○「ひと言」が顔写真の脇に吹き出し風にし
てアウトされていると、より伝わる。

【審議議案と結果】

○議案と結果の相関関係は、一覧にま
とめて理解しやすい構成となってい
ます。レイアウトのさらなる工夫を
お願いします。
○意見書について、内容がよく分から
なかった。討論、反対意見は分かり
にくい。

【見開きページ】

○見開きページで記事を構成す
る時、見出しに帯を使う、囲
みにするなど写真を含めて一
体感を示すレイアウトが必要
です。

【常任委員会報告】

○見出しは、他の字
体よりも大きく太
字にするとメリハ
リが出る。

全体として

○インタラクティブ（双方向）な内容にするのもよいのでは。町民に向けての質問など。

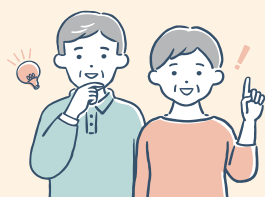
○議会だよりをデジタル化して欲しい。スマホで見られるように。

○町の事業に関連する国や県の法や制度について、QRコードを添付できないか。また、事業や専門用語を解説した「豆知識」的な情報を入れて、理解を深める。

○「議会だより」には、深掘りした政策の議論を掲載して欲しい。

○若い人に見てもらいたいのなら、デザインの刷新が必要。

○大きなテーマを毎月追っていくようなコーナーを作ってはどうか。町（行政）とは違った、議会や議員の視点からの鋭い切り口を望む。例えば、「人口減少」「農業」「教育」「事業継承」「観光」など。



お褒めの言葉もありました

◎【表紙】家族それぞれの表情が良かった。家族の笑顔が素晴らしい。

◎【ここが聞きたい】質疑項目が分かりやすく、内容がコンパクトにまとまっている。

◎【一般質問】質問と答弁の内容もよくまとまっている。「ひと言」は、各議員の意見が要約されていて良い。各議員の思いが込められている。

◎【常任委員会活動報告】各委員会の活動が理解できる内容だった。町外への視察研修などの記事も、今後も詳しく載せて下さい。

◎表紙などカラー刷りの部分もあり、きれいにできている。

◎以前と比較すると、見やすく、町が抱える課題が分かりやすく、工夫を感じる。

◎議員と町当局の質疑応答が要点を整理し、理解しやすい構成となっている。



議会紹介
動画が
できました!



議会の合間などに、ケーブルテレビで放映します。ぜひご覧下さい。

この人にインタビュー

表紙で取り上げた**坂井康司さんご家族**（森野）に
「家族」をテーマにインタビューさせていただきました。

—家族の時間の過ごし方は—

奥川で農家をやっているのでも春から秋にかけては、早朝から夜まで作業が続き、なかなか家族との時間を取ることができません。たまに休日が取れた時には、できるだけ家族と一緒に過ごすようにしています。買い物に出かけたり、ゲームセンターに遊びに行ったりと、何気ない時間を大切にしています。

—家族円満の秘訣は—

夫婦それぞれに「ゆとり」を持つことが大切だと思います。仕事や子育てばかりに追われず、個人の時間をある程度確保し、自分がやりたいことに向き合うことで心に余裕が生まれると思います。その余裕が、夫婦同士や子どもに対しても自然と優しく、寛容に接することにつながっているのだと思います。

—これから家族でやってみたいことは—

子どもたちがもう少し大きくなったら、家族みんなで稲刈りをしてみたいです。田んぼや畑での体験を通して、西会津暮らしを感じながら育ててほしいです。西会津で暮らしているからこそ、地域で遊ぶことや自然と触れ合うことが特別ではなく、当たり前のこととしてできる環境を大切にしたいです。



旅行先での家族写真

議会の動き

武藤道廣議員に永年勤続特別功労者表彰

武藤道廣議員が令和7年6月30日付けで議員在職期間30年となり、永年勤続特別功労者として町議会から表彰されました。



武藤議員は、平成7年に当選して以降、長年にわたり議員として町発展のためご尽力されてきました。その功績を称え、武藤議員には町議会議員表彰要綱にもとづき、表彰状と肖像画が贈呈されました。

編集後記

新しい年を迎え、冷たい空気の中で、日々の暮らしがまた動き始めています。その一つ一つの営みが、町の暮らしを支える力になっていることを感じます。

議会では、町民の皆さんの声を大切にしながら、より良い町づくりに向けた議論を重ねてきました。

本号が、身近な町政を感じるきっかけとなり、これからの西会津を共に考える一助になれば幸いです。
(渡部)



編集委員(広報分科会)

分科会長 小林 雅弘
副分科会長 荒海 正人
委員 上野恵美子
委員 長谷川 正
委員 仲川 久人
委員 渡部佳菜子

〒969-4495 福島県耶麻郡西会津町野沢
字下小屋上乙3308 ☎0241(45)4537
e-mail gikai@town.nishiaizu.fukushima.jp